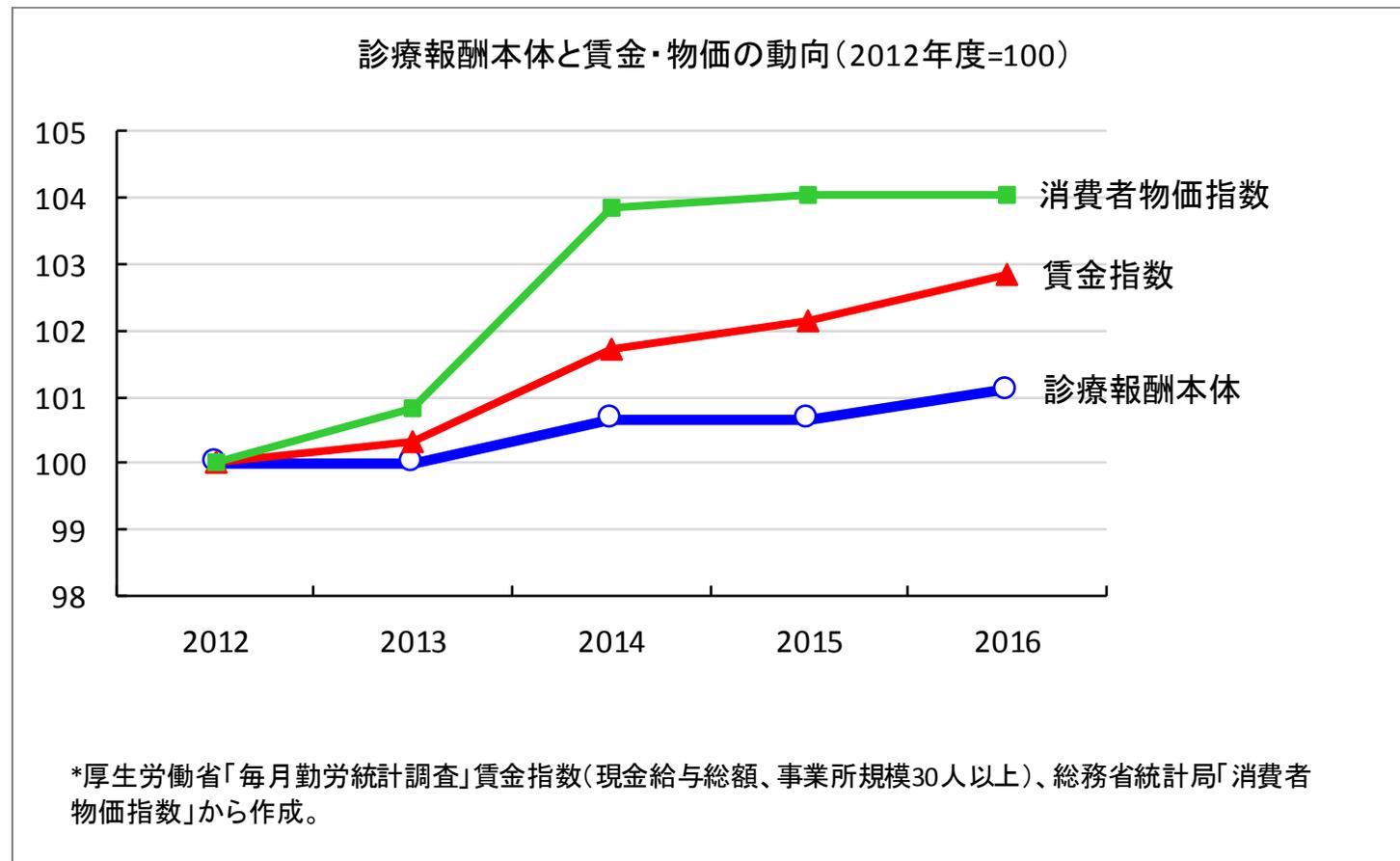


## 診療報酬本体と賃金・物価の動向(2012年度=100)

財政審が提出した資料には、1995年度を100として指数化したグラフが掲載されており、診療報酬本体は賃金や物価の水準に比べて高い水準となっていることが指摘されている。

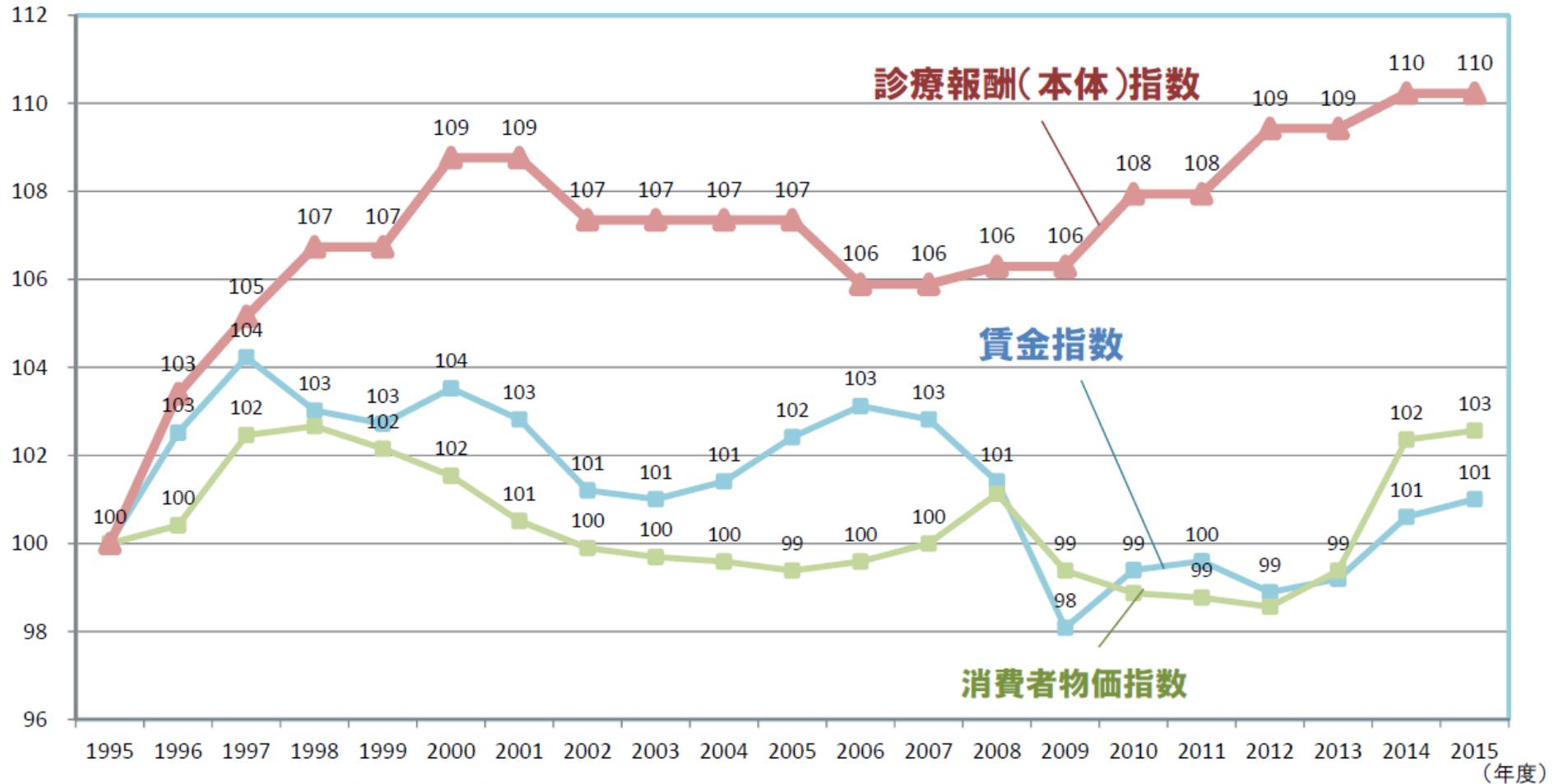
しかし、指数の動向は、どの年度を起点とするかで大きく異なる。安倍政権が発足し、アベノミクスが始まった2012年度を起点とすると、2016年度の診療報酬本体の水準は賃金や物価よりも低い。

なお、2007年に財政審が出した建議では、1998年を起点として診療報酬本体と賃金・物価を比較しており、指数の起点に一貫性がまったくない。



○ 診療報酬改定（人為的な価格増）により、我が国がデフレを経験した1990年代後半以降、賃金や物価水準がデフレにより上昇していない中で、診療報酬（本体）については上昇を続けてきた結果、賃金や物価の水準と比べて高い水準となっている

1995年(平成7年)=100



※ 厚生労働省発表の診療報酬改定率、厚生労働省「毎月勤労統計調査」賃金指数（現金給与総額、事業所規模30人以上）、総務省統計局「消費者物価指数年報」による。

※ なお、診療報酬本体は、各年度の改定率を前年度の指数に乘じることにより、およその診療報酬単価の推移を示したものである。

(出所) 財政制度等審議会『「経済・財政再生計画」の着実な実施に向けた建議』参考資料(2017年5月25日)

([http://www.mof.go.jp/about\\_mof/councils/fiscal\\_system\\_council/sub-of\\_fiscal\\_system/report/zaiseia290525/03.pdf](http://www.mof.go.jp/about_mof/councils/fiscal_system_council/sub-of_fiscal_system/report/zaiseia290525/03.pdf))

# 過去の国民医療費の将来推計と実績

適正化によって国民医療費の実績値は、過去の国民医療費の推計値を下回っている。

